

令和5年度 埼玉県高等学校初任者研修 授業力向上研修 中間報告

| | | | |
|--------|-------------|----|------|
| 初任者 ID | R5K1160 | 教科 | 歴史総合 |
| 学校名 | 県立浦和高等学校定時制 | 氏名 | 大畑文哉 |

| | | | |
|------------|----------------------------|---------------|------|
| 授業日時 | 2023年9月14日 | 教科・科目 | 歴史総合 |
| 学年・年次 | 2年 | 児童生徒数 | 9名 |
| 単元名 | 消費社会と大衆文化 | 本時／この内容を扱う全時数 | 2/2 |
| 教科書及び教科書会社 | 山川出版社『現代の歴史総合ーみる・読みとく・考える』 | | |

| |
|---|
| <p>授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につながるために行うか）</p> <p>本授業では、関東大震災において大打撃を受けた帝都東京を、満州などで経験を積む後藤新平が中心となり、防災教育的な視点で反省を活かして帝都の復興計画を進めていったことを理解する。また、都市の合理化によって近代的な生活を市民が送るようになり、メディアの発達から大衆社会へと変化していくことにつながるための知識の基礎を築いていく。</p> <p>メインの課題（授業の柱となる、シグソー活動で取り組む課題）</p> <p>復興の具体的な内容と、その後の日本に与えた影響を考える</p> <p>児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）</p> <p>震災の被害の様子は前時の授業で扱っているため、被害が大きくなった延焼をどう防ぐのかを考えるだろう。その具体的な内容については、木造の建築をやめること、すぐに火を消し火災の発生を防止すること、消火活動を迅速に行えるようにすることといった内容が挙がるのではないかと。現代への影響は教訓を活かすといったものが出るかもしれないが、それ以外のものを出すのには苦戦するだろう。</p> <p>期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）</p> <p>①各エキスパート資料から導いて欲しい内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 延焼防止策として、道路の新設・公園の設置・緑地化を進めたこと 作られたものが、現代の防災事情に影響を与えた、防災につながったこと 道路の新設が自動車の普及、自動車輸送の助けになったこと 燃えにくいコンクリート製の建物を建設したこと 郊外を宅地化し、人口が集中し、東京市の範囲が拡大したこと 震災後にメディアの需要が増し、新聞の発行部数増加、ラジオ放送の開始につながったこと 交通インフラが整備され、都心へのアクセスがしやすくなったこと <p>②各エキスパート資料を見比べて導いて欲しい内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 幹線道路がつながり、郊外から都心へのアクセスがしやすくなったこと 区画整理の段階で、パンフなどのメディアを使って市民の理解を得ようとしたこと 郊外(新市域)の人口が都心へのアクセスのしやすさやメディアの発達などで増加したこと グラフ「焼け止まりの要因」にある「耐火建築物」もまた復興計画にある 郊外が居住区となってもアクセスが可能になり、情報も入りやすくなったこと <p>←これらの要素のうち、すべてではなく2つでも3つでも資料の中から読み取れるか、どうか、情報の多い中で少しでも読み取ることができるかをみていく。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞</p> |
| <p>I 「延焼を防ぐための街づくり」 震災の経験を活かして、火災による被害の拡大を防ぐために幅の広い道路を新設・改修し、オープンスペースとして公園を設置、防火機能を見込んで緑地化を進める</p> <p>II 「燃えない街づくりと人の移動」 火が移ることのないコンクリート製の建物を建設し、郊外の農村を宅地化させ、そこに人口が集中するようになった</p> <p>III 「メディアの発達、都心へのアクセス」 震災時に情報の空白化が起こり、メディアの必要性が高まり、新聞は発行部数を伸ばして、新たなメディアとしてラジオの放送が始まり、さらに都心へのアクセスがしやすくなった</p> |
| <p>ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容</p> |
| <p>都市の近代化が進み、その後、大衆化が各種メディアや商業によってもたらされること、大衆社会が始まることを理解する</p> |

本時の学習と前後のつながり

| 時間 | 取り扱う内容・学習活動 | 到達して欲しい目安 |
|----|---------------|---|
| 前時 | 関東大震災の被害状況 | 関東大震災の被害の様子、火災が発生し、広範囲に広がってしまったことや、情報が杜絶されてしまったこと。 |
| 本時 | 震災後の復興と現代への影響 | 震災の経験を活かして、道路を拡げたり、公園を設置するなどの街づくり、緑地化、建物をコンクリート製にしたりとといった都市計画を行い、また、郊外の農村を宅地化したことで人口の移動が起こり、東京市の範囲が広がったこと、メディアの発達が促されたことを理解する |

上記の一連の学習で目指すゴール

復興計画が関東大震災の反省を活かして行われ、その都市開発によって現代の東京が形成され始めたこと、その段階で郊外の宅地化、人口移動が行われ、東京市の範囲が拡大したこと、メディアの発達が促されたことを理解する
資料の中から情報を読み取れるのか、グループで共有しあえるのかを主軸にしていく。

本時の学習活動のデザイン

| 時間 | 学習活動 | 支援等 |
|----------|---|--|
| 5分 | <p><導入> 前回の復習とジグソー法のやり方の確認 「問い」を確認する。</p> | <p>簡単に口頭で説明し、今回の内容を把握できるようにする 今回の授業の進め方の再確認をしてやることを具体化していく</p> |
| 4分 | <p><プレ記述> 前回の内容を踏まえて、「問い」に対しての現時点での「答え」を考え、書く。</p> | <p>文章化できなくても、箇条書きでもいいので、自身の考えを出すことができるように促す</p> |
| 4分 5分 | <p><エキスパート活動> ①自身の資料を読み取る ②班で資料の内容を確認する</p> | <p>資料の読み取り・各資料内の問いに苦戦しているときは、補助に入る 次の活動で他の生徒に説明できるように準備をすることを伝える</p> |
| 5分 8分 | <p><ジグソー活動> ①自分の資料を他の生徒に説明する。他の生徒の説明を聞いて、気になったところをメモする ②班で意見をまとめて「問い」に対する「答え」を考えてみる</p> | <p>説明の仕方は口頭でも図でも何でもよいことを伝える 他人の資料をそのまま読むことはないように説明する</p> |
| 6分 | <p><クロストーク> 自身の班の内容を他の班の生徒に発表。他の班の生徒の発表を聞いて、気になったところをメモする</p> | <p>他の班の発表内容に関係なく、しっかりと聞くように促す</p> |
| 8分 | <p><ポスト記述> これまでの活動を通じた上で、「問い」に対する自分の「答え」を考えて、文章化する</p> | <p>全体を通して、時間設定に気を配りながらできるように、都度説明する</p> |

グループの人数や組み方

エキスパート活動・ジグソー活動ともに3名ずつの班
欠席者が出た場合は、学習サポーターの方に補助として入っていただき、生徒の1人として最小限の情報の共有とサポートをしてもらう(実際に欠席者が出たため、そのまま班員として参加)
班の組み方は、生徒の様子に合わせて教科担当が決定する

(参考文献・引用等)

越澤明『後藤新平一大震災と帝都復興』筑摩書房、2011年。

筒井清忠『帝都復興の時代—関東大震災以後』中央公論、2011年。

他。

《実践後の振り返り》

1. 生徒の学習の評価（授業前後の変化）

（1）3名の児童生徒を取りあげて、同じ生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示して下さい。実技教科等で児童生徒の直接の解答が取れない場合は、活動の様子の変化について記して下さい。

| 生徒 | 授業前 | 授業後 |
|----|--|--|
| 1 | 大震災が起きないようにするのは、まず石の家や地震が起きても耐性がある家や場所をたてて、できるだけ燃えるものは火の近くに置かない。 | まず道路や、コンクリートの道や建物を多く作り、小学校や公民館に避難する所になり、東京全体がマンションや交通手段が多くなって、みんなアップデートをした。 |
| 2 | 予算がしっかり用意された上で、明確な指針をもって行われた 相対的に防災能力に秀でた街になった | 建設を中心に様々な面におけるアップデートによって町の利便性が上がり、人の生活環境が向上した。 燃えにくい素材で作った建設を広い範囲で行った。 ラジオを普及させた 生活環境が向上した |
| 3 | 火災による被害がすごかったので、建物から建物に簡単に火が燃え移らないように間隔をあける 今の東京はほとんどが高いビル | 延焼防止に役立った公園などの広場を増やし、さらに緑地化し防災だけでなく街の景観が良くなった。 道路を拡げ、区画を整理したことで郊外からのアクセスも良くなり、また燃えにくいように鉄筋コンクリートでできた大きなアパートや建物が増えた。そして、ラジオ等メディアを登場させ、情報整理に成功し、ニュースや娯楽が日常的になった。総じて住みやすい町となり人口が増えた。 |

（2）児童生徒の学習の成果について検討して下さい。授業前、授業後に生徒が答えられたことは、先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べていかがでしたか。

授業前：復興については延焼防止を防ぐための街づくりという観点で、木造建築を改変したり、道路を拡げたりとある程度、予想していた内容の解答があった。現在の日本への影響については、あまり記述がみられず、あっても特に直接的な関係性がないことや、抽象的な内容にとどまっている場合がほとんどであった。

全体的に文章能力に問題点があるが、予想していたよりも、考えて多くの内容を書こうという努力がみられた。

授業後：授業前の回答に比べて、かなり具体性が増し、復興の内容だけでなく現代への影響という観点の内容も交えて書いている生徒がかなり増えた。「期待する解答の要素」は多めに設定し、そのうちのどれくらいの要素を拾うことができるかを期待した。結果、班ごとに解答する要素がそれぞれ異なり、着目するポイントが異なるという結果となった。時間の都合上、最後のポスト記述ですべてを書くことはできてなかったが、班ごとの協議を聴くと、それぞれ4つ以上の要素をしっかりとおさえながら議論を進められていた。少し、資料の読み違えがあった部分もあったが、全体的には最低限の内容ができていたのではないかと。

2. 児童生徒の学習の評価（学習の様子）

児童生徒の学習の様子はいかがでしたか。事前の想定と比べて、気がついたこと、気になったことをあげてください。

・グループ活動においては、想定していたよりも活発に行われていた。エキスパート活動では書かれた内容の読み合わせ、そこで勘違いしていた内容をすり合わせるといった動きがみられた。しかし、その後のジグソー活動では、エキスパート活動で得た情報をまとめきれずに、資料の内容をそのまま他の班員に説明し、時間内に伝えきれていないグループがほとんどであった。また、グループによっては2人で議論が進んでしまい、1人はそれを聞いている、ないしは見ているだけの時間ができていた。

- ・資料の読み取りについて、各資料の内容を一つ一つ検討できていたが、要素が多いことから、上述したように、うまくまとめることができずに、書かれている内容をそのまま書き取って、他の資料の生徒にも説明していた。
- ・クロストークではすべての班が異なる内容を発表していた。要素が異なっていたり、同じ要素でも説明の仕方や順序が異なっていたりするなど、班ごとに発表内容に個性があったのは面白かった。

3. 授業の改善点

児童生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、次の3点について授業の改善点を挙げて下さい。

- (1) 授業デザイン(課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど)
 - ・答えの要素を増やしたオープンクエスチョンにしたが、多すぎてまとめられず混乱する部分もあったため、もう少し答えの要素を絞る。または、クローズドクエスチョンにして、要素を集約させ全体の資料を読みとけているかを測るという構図にしてもよかったかもしれない。
 - (2) 課題や資料の提示(発問、資料の内容、ワークシートの形式など)
 - ・時間設定は授業作成時から、実施時、常に考えさせられた課題であった。生徒が何か発見をするうえで、この時間は適切なのかと考え設定したが、なかなかうまくいかなかった。そのため、今回の場合であれば、2コマ構成(45分×2)の授業にするか、1コマ構成(45分)の授業時間に合った資料のボリュームにするのが良かっただろう。
 - ・資料内のワークシートはもう少し、誘導ありきの問いを作成して、生徒たちが資料にとっつきやすいようにしたほうが、今回の時間設定では良かっただろう。文章化する練習は生徒たちにとって重要だが、エキスパート活動では資料の読み取りができるかどうかを主軸であるため、そちらの目標に合わせた問いにするべきであっただろう。
 - (3) その他(授業中の支援、授業の進め方など)
 - ・班の構成は生徒の特性を考えて設定したが、2人で議論を進めてしまう場面もあったため、グループ活動の段階ごとに、全員巻き込んで議論ができるように、声掛けの工夫、また「答え」と資料の内容をエキスパート資料の1つでも掛けたらできないように設定することで改善できるかもしれない。
 - ・常に資料の内容を「まとめ」ながら議論を進めるような声掛け。しかし、逆に最後の「答え」を書くポスト記述では、具体的な内容を含めながらまとめられるように、各活動でのやり方の共有をより詳細に行っておく。
 - ・グラフを読み取ったり、資料の文章を読んだりすることが苦手な生徒には、完全に個別の活動にせず、教員からヒントや解説などの働きかけをもう少ししてもよかったかもしれない。資料についても苦手な生徒が情報を読み取ることのできる内容に変えるほうが良いだろう。
 - ・ワークシート上で、どの活動のときにどこの欄に書くのかを迷っていたため、最初の段階、および各段階で、記述する所の確認をするべきであった。